



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 FAX 045-571-3834

ホセ・アントニオ・デオリ氏 ス페인大使館文化科学担当参事官就任

横浜スペイン協会 会長 下山利明



長年お世話になりました、サンティアゴ・エレロ氏が退任され、その後任としてホセ・アントニオ・デオリ氏がスペイン大使館文化科学担当参事官に着任されました。

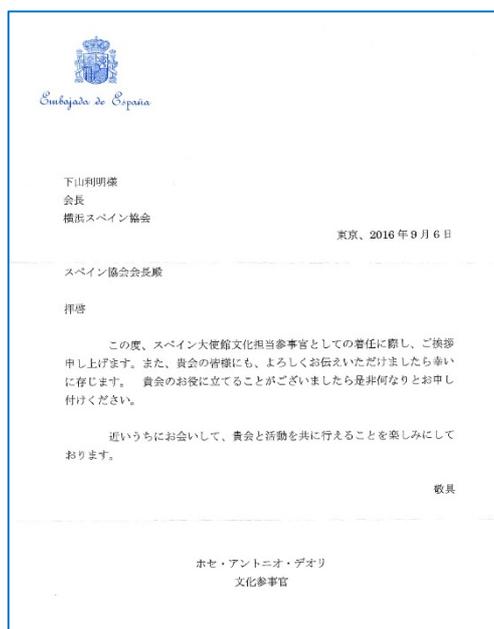
その歓迎レセプションが8月31日にスペイン大使館にて開催され、当協会の代表として出席致しました。当日は吉川元偉元駐スペイン大使を始めとして、フラメンコの小松原庸子氏、小島章司氏、各地のスペイン友好協会代表、外国語大学、科学研究者等多くの文化、科学交流における関係者が出席されておりました。デオリ氏は長い外交官の



キャリアを積み、在コロンビア、ボゴタ、スペイン大使館文化参事官、スペイン文化省、文化、科学に関係する領事、次官を担当されて来られました。デオリ氏は、日本の文化に大きなご興味をお持ちになられ、特に黒沢監督の映画、川端康成、谷崎潤一郎の小説に始まり、アニメ「アルプスの少女ハイジ」「母を訪ねて三千里」等に大きな影響を受け魅了されていらっしやるとのことでした。また、科学、研究領域にも



興味を持たれ、スペインと日本における文化、科学領域での更なる交流に力を入れたいとおっしゃっていました。現在、日本には各地に16のスペイン友好協会が存在しており、その全てへの訪問を希望されておられ、近い将来、協会会員一同お会い出来る事を楽しみにしております。



●スペイン語クラス

この夏スペイン語クラスでは講演会や夏期講習など幾つもの活発な活動が行われました。

1) 第9回クラス委員会開催 2016年7月13日(水)

参加者：スペイン語8クラス委員、顧問2名

各クラスの活動報告では受講者の学習意欲が上がりスペイン語クラス全体のレベルアップに繋がりはじめたとの報告があり、これはクラス委員がクラスをまとめてくださり、学習しやすい環境が整ってきたものと思われまます。今後も皆様の持つパワーを発揮して頂けるクラスを作ってゆきたいと思っています。(福長昭代)

2) アフタヌーンティー「みんなが知りたいスペイン」

2016年7月16日(土) 横浜市青葉国際交流ラウンジ 主催

講演者：ベゴニャ・ゴンザレス講師(ビオレッタクラス講師)

アフタヌーンティーは日本在住の外国人によるその国や文化を紹介する日本語での講演会です。ベゴニャ講師のご専門は考古学で、お話も古代から始まり、異民族流入とともにもたらされた文化を組み込んで築かれていったスペイン文化の変遷の歴史について語られ最後に「マドリッドの今」で締めくくられました。超満員の会場は終始熱気に溢れ出席者にはスペインとその文化をあらためて知る良い機会となったと思われました。(福長昭代)



3) スペイン語で新聞・雑誌を読む会の特別講義 「チリのお祭りと伝統」

2016年7月23日(土) 波止場会館にて開講

講師：Paula Letelier 関西外国語大学講師

ラテンアメリカでは先住民族、宗教、独立記念日、地域などにまつわる様々なお祭りがあり、中でも特に有名な「Carnaval del Sol」「Fiesta de independencia」「La Minnga」に就いてプリントとスライドを交えて解説頂きました。伝統的なカルナバルはペルーやボリビアなどの国境近くの北部の都市(Anicaなど)に毎年何千人もの人が移動してくるそうです。これほどの意味の

あることが果たして私にはあるだろうか・・・と自問しながら聞いていました。

ミンガとはみんなで力を合わせて仕事をする日のことで、農作業の繁忙期や家の基礎づくりなど人出が必要な時に行われ、終わると手伝ってくれた人全員に食事を振る舞うのが慣わしだそうです。ミンガはチロエ島などの南部で行われており、地図を見るとチリ南部がこれほどの群島で成り立っていることに認識を新たにしました。

ラテンアメリカのすべての国でそれぞれの独立記念日を祝うそうです。チリの独立記念日は9月18日。今まさに伝統的な音楽、踊りと衣裳、そして食事で大いに盛り上がっていることでしょう。チリといえばワイン、地震、細長い国という記憶でしたが明るく楽しくお祝いするお祭りについて、とても興味深い講演でした。(スペイン語で新聞、雑誌を読む会 関敬子)



4) 第8回夏期スペイン語文化講座に参加して(7/27~8/24)

今回は3名の内外講師による計6回の講座に参加しました。当協会のフラン先生は「フランコ独裁時代のスペイン」という大変重いテーマでした。第二共和制から内戦、フランコの独裁政治による暗い時代とその死後の民主化への移行・・・、スペインに関心ある者にとって大変興味あるテーマでした。

Juan Manuel 先生は、歌劇カルメンの「カルメン」及びロルカの戯曲がテーマで、歌劇でのカルメンは情熱的な身持ちの悪い女性ですが、アンダルシアのコプラ (Copla) で歌われているカルメンは敬虔なカトリック教徒であり *decente* な女性であるとされていることは興味深いことでした。ロルカの戯曲では「ベルナルダ・アルバの家」の紹介がありました。

Alberto Raimundo 先生は、Luis Buñuel や Pedro Almodovar などスペインの代表的映画監督について、各々の監督の生立ちや作品の特徴についてお話がありました。また、カトリック支配が進むアンダルシアを中心とする中世社会の特徴、11~12世紀の Jarcha という「愛の抒情詩」、レコンキスタが進展していく時代の Morisco、Judio converso、Mozárabe、Mudéjar 等の混在社会・・・大変興味深いお話でした。(Violeta, Clavel クラス 久谷幸雄)



< Francisco 講師 >



< Juan Manuel 講師 >



< Alberto 講師 >

●サークル「Club 2020」 ～ スペイン語通訳ボランティア活動

リオオリンピックも終り、いよいよ次は2020年の東京です。今後スペイン語圏の訪日客の増加も予想されます。「Club 2020」はスペイン語圏から日本を訪れる人々のおもてなしが出来るように、生きたスペイン語を身に付けようと立ち上げたサークルです。

そこで今回はサークル活動とは別に、既に実際に通訳ボランティアをされているお三人の会員のご活躍を紹介します。

* * *

◎ボランティア活動

商社に勤めていた現役時代は、外国語との関わりがありました。この経験を生かして、現在二つ



の Volunteer 活動をしています。一つは Mitsui Volunteer Network という団体の国際交流・横国大会に所属して、交換留学生との一対一交流をしています。今迄に仏、台湾、独からの留学生を、そして現在は韓国の女子大生を partner にして、毎週1回約2時間、主に日本語学習の手助けをしています。以前に約1年間「日本語教師養成講座 420時間」を履修したの

が少しは役に立っているのかもしれませんが。この部会では他に体験、鑑賞、見学会等の活動を行っており、私は日産自動車追浜工場見学会の世話人として申込みから引率、通訳までを引受けています。もう一つは、当会員の渡邊昭夫さんと同じTokyo Free Guideで英・仏・西語のguideをしています。約7割は西語ですが、大体月1回のペースで楽しんでいます。なぜguideをするのかと？それは一日のguideを終えた時「やってよかった」という達成感というか爽快感が味わえるからです。その後の una caña de cerveza はたまりません。皆さんも参加を！（縄岡修二）

◎スペイン語ボランティアガイドのお誘い

私は、4年前から東京にあるNPO法人・TOKYO FREE GUIDEに所属して、東京を中心にスペイン語のボランティアガイドを楽しんできました。喜寿を過ぎてから始めましたが、もっと若いうちから始めていれば、人生がより楽しかったであろうと考え、特にスペイン語で人生を楽しもうとされている方々に、この活動への参加をお勧めします。他のことと同様に初めは大変ですが、ゲストから感謝されたときの充実感は何事にも代えられません。いろいろな面で楽しく、有効なボランティア



活動です。海外にも沢山の amigos ができ、これからも続けるつもりです。興味のある方は、aquiojapon@yahoo.co.jp まで遠慮なくお問合せ下さい。小グループでの上野・浅草などのガイド体験会などもできます。（渡邊昭夫）

添付写真1. スペインの挿絵画家・Sigrid Martínez さん

添付写真2. Madridでゲストと再会

◎スペイン語圏の人々との心地よい交流

2014年の4月から、海外からの観光客を案内するボランティアガイドの民間組織であるTFG (Tokyo Free Guide) のスペイン語ガイドに登録しました。TFGの存在は2014年1月29日に行われた横浜スペイン協会での渡邊昭夫さんの「嬉し楽しボランティアガイド」というTFG紹介の講演会がきっかけでした。ガイドの1年目の2014年は、5月にカタルニャからの2人を日光へ、アルゼンチンからの2人を横浜へ、11月に2日間にわたりメキシコからの家族4人を、12月にはビルバオからの男性1人とサラゴサからの男性1人をそれぞれ東京に案内しました。2015年は9月にバルセロナから女性1人、マドリッドからのご夫妻（奥様は車椅子で移動されたが幸いにして大きな支障はなかった）のそれぞれを、10月にはアリカンテからの30代のカップルと、ムルシアからの新婚カップルを、12月にはアルゼンチンから「FIFAクラブワールドカップ」観戦にこられた男性2人を、又翌2月にはサラゴサからの4人を案内しました。2016年度も年6回以上のガイドをしたいと思っています。スペイン語圏からの観光客は文化の多様性に富んでいて、心が温かく気持ちの良い人ばかりで、案内する者にとっても気分が晴れやかになります。2020年の東京オリンピックの年までには訪日観光客も大いに増えると思います。皆様もスペイン語を通してスペイン語圏の文化の多様性をエンジョイされ、更にはTFGガイドにもチャレンジされることを期待しています。TFGのスペイン語のガイド人数は、2014年は41人（総ガイド数、307人）、15年は42人（329人）、16年は43人（389人）で、TFGガイド総数の平均342人の約1割強です。ガイド希望客とガイド数の比較は2015年のデータでは、スペイン語圏からの



観光客でT F Gにガイドを希望した人数は延べ 2261 件（内、英語でのガイドでもOKの観光客は 1712 件、スペイン語のみは 549 件）で、この希望客に対し実際にT F Gのメンバーがガイドした件数は、英語可の観光客に対して 430 件、スペイン語のみのガイドでは 137 件となっています。まだまだスペイン語ガイドの数は足りない状況です。最後になってしまいましたが、2年前に横浜スペイン協会にてご報告いただき、その後も横浜のスペイン語ガイドの仲間を色々バックアップしていただいている渡邊昭夫さんに心からのお礼を申し上げます。（幸島雄一郎）

●サークル ORIGAMI

毎月第3水曜日 13:00～15:00

講師：中村瑛子・影山みゆき講師

会費：3,000円（材料費込み 6ヶ月分）



昨年の12月からORIGAMIサークルに入れていただいております。今日は私がこのサークルに入りたいきさつをお話ししましょう。3年前に出雲大社にお参りした折り松江の「皆美」で昼食をとりました。その時中村先生の目の覚めるような躍動的な素晴らしい人形たちがエントランスに展示されており、ただただ見入ってしまいました。いつもなら無視する芳名録に記帳し東京で展示なさる折りはおしらせくださるようメモを残して帰りました。すると昨年先生から思いもかけない御案内があり、さらに驚いたことに夫が「旅の会」の縁で絵タイルを展示させていただくことになり、そのご案内葉書と同じではありませんか。これはもうお習いするしかありません。怖そうな先生だったらどうしようと思ったのですが、「そんなことはないよ」と夫に背中を押されてお仲間に入れていただくことになった次第です。どうぞよろしくお願いします。（小関玲子）

●旅でスペインを識ろう会

『60代主婦の語学留学・グアテマラ～憧れのプライベートレッスン』

講師：高森清子 2016.7.11

7月11日、高森清子さんから、グアテマラのアンティグアでの3ヶ月の個人留学のお話を伺いました。必要なのは、往復航空券とチャレンジ精神！初日の宿だけを決めて、後は事前調査したスペイン語学校を直接訪問し、そこでホームステイ先も決定する。日本人生徒は誰もいない学校、ホームステイ先を選ぶという、まさにチャレンジ精神旺盛な高森さんに感嘆しました。



グアテマラ人の先生の指導のもと、個人授業は毎日4時間、宿題たっぷり、1ヶ月もするとスペイン語が聞こえるようになったとのこと。そんな勉強の頑張りに加えて、週に1回は自分から申し出て、日本料理をホストファミリーにふるまったり、サッカーを見に行ったり、1泊の観光旅行に行ったりと、余暇も十分楽しまれたご様子です。帰国の際は、接続法を使って皆さんが名残を惜しまれ、接続法の用法も実感されたとのこと。高森さんのチャレンジ精神に乾杯！私たちが後に続こう（続きたいな）？！（古賀恵子）

フランスとの国境をなすピレネー山脈の裾野に広がるアラゴン王国は11世紀から12世紀を中心に栄えたロマネスク様式の多くの美しい修道院、カテドラル、カステロが今に残る地方です。ロマネスクの優しさの感じられる建築様式とユーモアのある彫像を愛する小関さんがテルエルから北へのルートに沿って、アルバラシン、サラゴサ、ウエスカ、アルケサル、アインサ、リグロス等を訪ねて撮影した映像を見ながら話をお聞きしました。アル・アンダルスと呼ばれる780年間に亘るイスラム支配の跡としてのモスク建築の写真を見ても、北のアラゴン王国にまでアラブの支配が及んで



いたこと、その後キリスト教カトリックの勢力がロマネスク様式の修道院や教会を一気に建築していったこと、小関さんの訪れた4月の雪の残る山々の自然の厳しさと共に美しい村々の写真とお話しは出席者の多くにスペインへの旅の説得力ある誘いとなりました。(山崎宗城)

●シネマサロン

「ル・コルビュジエの家」-El hombre de al lado-
2009年、アルゼンチン 監督：Mariano・Cohn , Gastón・Duprat

今年、世界文化遺産に登録されたル・コルビュジエの建築作品の一つで、南北アメリカ大陸で唯一のアルゼンチン・「クルチュェット邸」が舞台。この家に住むこと自体が成功の証であるアーティスト、レオナルドの妻と娘との平穏な生活に、突然、隣に住む男が自分の家の壁にハンマーで穴を開ける。「ちょっと光を入れたいだけ」との言い分、やめてくれというレオナルドとの話し合いも進まない。とうとう立派な枠付きの窓ができてしまう。レオナルドは騒音と常に見張られているような緊張感から気分も不安定になり、仕事も妻との関係も悪くなる。男は親しげに近づき、怪しげなオブジェをプレゼントしたり、内輪のパーティーに入り込み雰囲気をおぶち壊す。夫婦はついに防犯用パニック・ボタンを付ける。ある日、二人で出かけた車の中で警報が鳴る。ひとりで家にいる娘に危険が迫る！と急いで戻ると、強盗が入ったのだが、娘は無事。だが強盗を撃退したのは隣の男ビクトルだった。邸内の象徴的なスロープに銃で撃たれたビクトルが寄りかかっている。レオナルドのお礼の言葉も間に合わない。思いがけない結末とビクトルの存在感、アートな椅子やインテリア、様々なオブジェを見るのも楽しい。(松本益代)



●マドリッド便り

今号からマドリッド在住の会員からのお便りの掲載が始まります。

昨年9月に入会された鈴木裕さんです。鈴木さんは1973年にスペイン外務省給費留学生としてスペインへ渡ってから43年間スペイン在住です。スペインの歴史に大いに興味をお持ちになり、研究をされ本も著しました。(Personajes del siglo XV) 会員の皆さまの中にはスペインの歴史にご興味のある方も多いと思います。連載が始まります。どうぞお楽しみに！

《スペイン史要約》 ～ 鈴木 裕

スペインの歴史について簡単に要約しますと、3100年前にヨーロッパ最古の町cadiz 市がフェニキヤ人によってイベリア半島最南端に築かれ後にカルタゴ人が侵入、さらにローマ帝国のイスパニア州となりローマ帝国崩壊後西ゴルド王国がスペインを支配、更にイスラム教徒の侵入で800年にわたる国土回復戦争が繰り返されるといった波乱に波乱の満ちた歴史があります。1492年のグラナダの開城で8世紀かけて達成した歴史的偉業はスペインのヨーロッパにおけるステータスを高め、さらに同年10月12日には新大陸を発見、スペイン帝国が誕生するに至ります。アメリカ最古の町フロリダのSan Augustin 市もスペインによって建設されました。アメリカ大陸のみならず太平洋もスペイン湖として発見され、のちにスペインによって太平洋と呼ばれるようになりました。日本を含めすべての太平洋の島々はスペイン領として現在の国際連合的立場にあったローマ法王庁によって承認されます。ヨーロッパでもフランスとイングランドを除き殆ど全ての地域はスペインによって支配され自分の領土から外にでずに地球を一周できる世界大国になります。実際には日本はスペイン領にはなりませんでしたが、当時のスペインの存在は徳川幕府に脅威感を与え、結果として日本は鎖国の時代に入りますがスペインが原因で鎖国令が出されたことは明らかです。



* Dibujo pertenece a Manuel Moral y Maragarita Rey.

16世紀スペイン帝国の領土(赤色と紺色)



* Fotografía sacada de la página de Autoridad portuaria de la Bahía de Cadiz

アンダルシア州カデイス県カデイス市

●会員の活動報告

*サルスエラ 「ルイサ・フェルナンダ」

当協会前理事の桜田ゆみさんが代表を務める日本サルスエラ協会が、7月14日駐日スペイン大使館のオーディオトリウムにおいてサルスエラ『ルイサ・フェルナンダ』を上演しました。この日、外では雷鳴と激しい雨音で騒然としていましたが、公爵夫人に扮した桜田さんが



登場するや会場はすっかり 19 世紀のスペインに。モレノトロバ作曲の美しい旋律や出演者の方々の巧みなお芝居と歌に観客は虜になりました。特に『パラソルのマズルカ』は楽しい曲で思わず体が動き出します。先日お亡くなりになった林屋元在スペイン日本大使のお気に入りの曲だそうで、良い追悼になったのではと思いました。

サルスエラは思いがけない展開で、劇的なラストシーンが終わると会場からは惜しめない拍手が沸き起こり、カーテンコールで会場はまさに一体となり、その余韻はレセプション会場にも溢れていました。また、開演前、楽屋にベニート大使がご多忙の中、激励に来て下さいました。一人一人と握手、記念撮影にも応じていただき、出演者のテンションは上がりました。今回の主催者はスペイン大使館ですが、その影で奔走して頂いたエレロ文化参事官は、残念ながら異動で離日してしまったのが残念でした。エレロさんのご活躍お祈りしています。



余談：5月に桜田さんから私たちサクラ合唱団に出演依頼が来て、安請け合いしたところ、台本と楽譜と音源が送られて来てびっくり。本格的なサルスエラではないですか。これは大変と栗山先生の指導で歌と振り付けの特訓をしました。成果は別としてプロの方々を稽古や楽屋で間近で見て、その技量や集中力に敬服、ステージも楽しむ事が出来ました。桜田さんはじめお世話になった出演者の皆様に紙面を借りお礼申し上げます。ありがとうございました。(臼井慎一)

*問屋正勝さん・サンティアゴ巡礼路便り

～パリから新幹線(TGV)と急行を乗り継いで5時間、南東に位置するル・ピュイ(Le Puy)に着きました。6月30日、出発の朝、大聖堂で道中の安全を祈願する祝福を受けて出発しました。フランス国内で700km、ピレネー山脈を越えてスペインに入ってから800km、合計1500kmを2ヶ月かけて歩きます。サンティアゴ巡礼を始めて今年で10年目、歩いた距離は目標としていた10,000kmを超えることになります。次は何を目標にするか？歩きながら考えることにしています。～

問屋正勝さんが、上のように発信してから9月19日にサンティアゴに到着するまでの82日間を「サンティアゴ巡礼便り」として横浜スペイン協会のホームページに34回にわたりアップしています。

巡礼路でのボランティア、巡礼とお遍路を繋ぐアイディアの企画と実行、等々。ご自分の為だけではなく、出会った多くの人たちとの繋がりを広げながらの10年の歩みでした。

昨年の横浜スペイン協会の創立25周年の記念イベントの一つとして、レオン県ビエルズに桜の植樹が行えたのも、問屋さんの巡礼路で得たネットワークのおかげでした。次の10年の目標も見つかったようです。ますますのご活躍を期待します。

ホームページのトピックス「お知らせ」からバックナンバーで『巡礼路便り』はご覧になれます。ぜひ、どうぞ！！(下山綾子)



2016. 8. 17 日本経済新聞 神奈川版

***大戸尚美さん 「2016 シェリー・オフィシャル・エデュケーター」の認定者に！**

サロンでスペインワインとチーズ講座の講師をしてくださいました、大戸尚美さんが本年度のシェリー・オフィシャル・エデュケーターのコースを受講し、テストに合格され認定者となりました。ヘレス・デ・ラ・フロンテーラにて9月21～23日30時間のセミナーを受けて、テイスティングと記述テストをクリア。日本で17番目の認定者です。スペインの代表的なワインヘレス（シェリー）を日本で広めるのがお役目との事です。当協会でのシェリー講座も予定しています！



原産地呼称統制委員会会長ドメック氏と

◎ 会員によるコンサート・イベント等のお知らせ



***西澤安澄さん 「ダダイズム誕生100周年・ダダとスペイン」**

～演奏会×対談～

2016年11月24日 19:00～21:00

会場：豊洲シビックセンターホール

「ダダ宣言」後その強烈なパフォーマンスで一躍ヨーロッパの芸術界の寵児になったトリスタン・ツァラは、「血の婚礼」の詩人ガルシア・ロルカ、天才画家ピカソ、ダリ他、スペインの巨人たちと親交を結びました。アナーキーというキーワードで、ダダとスペインを繋ぎ、詩、音楽、美術の夢想空間に遊ぶ試みです。



***高木洋子さん**

2016年12月4日（日）14:00 開演

会場：横浜市磯子区民文化センター

【横浜スペイン協会後援】

スペイン・セビーリャ出身の名ギタリスト、ホセ・マリア・ガジャルドさんの来日ツアーで、4日（日・昼公演）杉田劇場 [アランフェス協奏曲を全楽章を共演] と、7日（水）豊洲シビックセンターホール [アランフェス協奏曲2楽章と、作曲家であるガジャルド氏のギター作品をピアノで演奏します] の公演で共演します。こちらもスペシャルな企画となりますので、ご来場いただければ嬉しいです



***滝澤三枝子さん・第1回スペイン音楽国際コンクール**

2016年12月11日（日）10:00 開演

会場：高輪区民センター

【横浜スペイン協会後援】

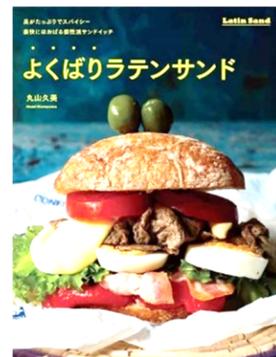
日本スペイン音楽文化協会は2015年に、スペイン音楽を専門とする演奏者、音楽学者のみならず、スペイン文化に携わるスペシャリストおよびスペイン文化を愛する一般愛好者によってスペイン文化の意識を高め、広げていく主旨で設立されました。スペイン圏各国と交流を図り、国際人として活動していく文化協会です。

柳貞子様（声楽の部審査委員） 滝澤三枝子様（審査委員長）

***丸山久美先生 「よくばりラテンサンド」丸山久美著（誠文堂新光社）**

～具がたっぷりですパイシー 豪快にはおぼる個性派サンドイッチ

今年も横浜スペイン協会のお料理サロン「スペイン料理を作って食べる会」（11/19）の講師にお招きします。先生の新刊書をご紹介します。中南米の国々やスペイン、ポルトガルの大胆でボリュームたっぷりのサンドイッチをご紹介します。今までにない個性的でラテンの陽気で元気がいっぱいだったおいしいレシピの数々です。コラム「スペインのレトロなおやつ」やスペインのボカディージョレシピもたくさんご紹介しています。



***戸塚区イベント・第7回とつかお結び広場**

横浜スペイン協会の活動紹介のために、「とつかお結び広場」に出展します。お近くの方はぜひ覗いてみて下さい。

2016年12月4日（日）10:00～16:00 会場：戸塚区総合庁舎 3F 多目的スペース

***海外会員からのお手紙 ～小原京子さん 在マドリッド**

9月19日、マドリッドに到着した下山綾子さんと嬉しい再会をしました。翌日は、爽やかな秋晴れで、マドリッド在住会員鈴木裕さんの提案で、マドリッドから北西に約50キロ、ユネスコの世界遺産エル・エスコリアルへのドライブ。まずエル・エスコリアルが一望できる「フェリペ2世の椅子」へ。花崗岩でできた椅子で、修道院の建築を命じたフェリペ2世がここに座って建築の進み具合を眺めたと言われており、玉座から絶景が眺められるお勧めスポットです。修道院には多くの名画が収蔵されており、ボスの「快樂の園」もここにあったのですが1933年修復のためプラド美術館に移されそのままプラドに「臨時」展示中なのだから。地下にはカルロス1世以降の王家霊廟があります。棺を入れる26の棚の最後の棚はファン・カルロス1世のご母堂用。今後どこが王家の墓になるかは未定だそうです。



そういえば、不思議なことがありました。エル・エスコリアルを散歩していたとき私の携帯電話が鳴りました。元駐日スペイン大使ファン・レニャさんからでした。横浜スペイン協会の方々と一緒にいると伝えると、びっくりするやら、喜ぶやら。レニャ大使と下山初代会長との出会いは、協会の前身「ひまわりの会」がご縁で35年近く前に遡るそうです。下山初代会長がテレパシーを送ってくれたに違いありません。（小原京子）

本当に不思議な体験でした。レニャ大使は1983年、義父が「ひまわり協会」を設立した際に一等書記官としてスペイン大使館の窓口をしてくださったと聞いています。その後1999年に大使として再来日され、協会の名誉会長に就任いただきました。そして2000年に義父が「イザベル女王勲章オフィシャル十字型章」を叙勲した際には、大使公邸にて伝達式とレセプションにお招きくださいました。その後レニャ大使と義父は、長い間交友関係が続けさせていただいたので

す。晩年、レニャ大使が韓国の大使としてすぐお隣の国にいらっしゃると知り、会いに行きたいと希望していましたが、叶えてあげられなかったことが悔やまれます。きっと天国から「レニャ大使によろしく伝えて～」とテレパシーを送ってきたのですね！（下山綾子）



25周年記念植樹・桜便り



スペイン語クラスの先生としておなじみの栗山由美子先生が、お知り合いの結婚式に参列されるためにサマランカへ行ってこられました。その際、今年の植樹でお世話になり今年6月に来日されたプラダさんをお訪ねになりました。我々横浜スペイン協会が植樹をさせていただいた桜はどうなっているのか気になりますね。しっかり見て来て下さいました。



「今年の夏は異常な暑さで、朝からそれこそ深夜まで同じような暑さが続き、人にとっても植物にとっても大変過酷な夏だったようです。3本植樹した桜の内、1本は枯れ、2本が元気でした。1本は大きく成長し、もう1本はゆっくり成長していました。」との報告です。

「プラダさんは『植樹された桜の周辺に、桜をたくさん植え、そのうち春になれば、素晴らしいお花見ができる』と言ってらっしゃいました」とのことです。

※前号でプラダさんをトペさんとご紹介していました。苗字はPradaさんです。トペさんとは、彼の口癖「A Tope!」（最高!）からとって、皆で親しみを込め「トペさん!」と呼んでいました。

協会からのお知らせ

毎年恒例の「横浜スペイン協会新春親睦パーティー」の開催日時と場所が決定致しました！今年も歌、フラメンコ舞踏、スペイン語クラスメンバーによるパフォーマンス、ビンゴ、等楽しい趣向をたくさん企画し盛り上げていきます。たくさんの会員の参加を期待しております。皆様、今からスケジュールの確保、宜しくお願い致します。

2017年2月4日（土）

12:30～

KKR ポートヒル横浜（港の見える丘公園隣）

※詳細が決まりましたら、ホームページ、チラシ等でご案内します。



新会員紹介

安達 秀晴 (Hideharu Adachi) 横浜市金沢区在住 2016年9月入会

動機：スペイン語を学びたい。料理教室などに参加したい。
スペイン語歴3年

滝澤 三枝子 (Mieko Takizawa) 東京都板橋区在住 2016年9月入会

入会し、横浜スペイン協会を通して今までの活動を活かし、スペイン音楽を皆様と共に広めたく希望しています。現在、一般社団法人日本スペイン音楽文化協会の代表です。今後日西文化を更に理解していただきたいと思います。

★ 意外と知られていない会長の動向

- 2016年7月6日(水) 駐スペイン大使歓送迎会(越川大使帰任、水上大使赴任) 於：ホテルオークラ
- 2016年8月31日(水) ホセ・アントニオ・デオリ文化参事官歓迎レセプション 於：スペイン大使館
- 2016年10月13日(木) ナショナルデー記念レセプション 於：スペイン大使館
- 2016年10月23日(日) 山形スペイン友好協会 情報交換 芋煮会参加 於：山形市馬見ヶ崎

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	東京都品川区上大崎2-16-3	03-5420-5328	サングリア1杯無料
アトリエ フレア Atlier Flair	鎌倉市大船2-17-8 中島ビル3F	0467-42-8531	押し花体験費用割引
スペインバル ボデガ・デ・サリア	東京都港区台場2-2-1 サ・タ・ス・ダ・バネックスホール1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

<編集後記> スペインが好き！ただこの共通点で当協会に集ったメンバー。皆さん多方面でご活躍されています。そのご報告をAIYES通信に掲載出来る事は、本当に嬉しいことです。

10月19日からイベリア航空の成田ーマドリッド線の直行便の運行が開始されました。スペインが近くなります。旅行記の投稿もどしどしお寄せ下さい。(編集委員 A.S)

編集長 / 下山綾子

編集委員 / 白井慎一 古賀恵子 下山利明 武菱邦夫 服部君江 福長昭代

* 投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会

E-mail : info@yokohama-spain.jp
ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp/>

次回の原稿締切は
12月5日(月)です